



発行

宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801  
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41  
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料  
利用時間：4月～10月/9時～16時30分  
11月～3月/9時～16時

6月のイベントのようす

園内至るところの「ススタケ」の枯れが目立っています。何でも60～120年の間に一度花を咲かせて、一斉に枯れていくそうです。枯れた後にすぐ復活してくれるのか、生態系にどんな影響があるのか、未知数のようですが、前回は120年前だとすると、この現象を見れるのは貴重な経験なのかもしれませんね。

## ツキノワグマ目撃多数

6月号にも掲載致しましたが、ツキノワグマの目撃情報が例年より多く寄せられております。グランディ21近辺の県道では親子グマの目撃情報もあり、園内を散策する際には、クマ鈴やラジオ等音の出る物を携帯する等、十分ご注意の上ご利用下さい。

## 七夕に願いごと

7月7日(金)より、中央記念館入口に七夕用の竹を準備し、自由に飾りつけができるコーナーを設けております。短冊にみなさんの願いを込めて、すてきな七夕に仕上げましょう!



## 刈払作業が始まりました

今年も園内遊歩道の刈払作業が始まっております。安全管理には十分努めておりますが、作業を見かけた際には、飛び石や刃による事故防止のため、むやみに近づかないようご注意下さい。



6月5日 川崎町スポーツクラブ 運動笑学校のみなさん



6月18日 野鳥クラブ



6月20日 もりの案内

今月の **けんみんのもり写真館** スペース広め  
スタッフが見つけたしぜんのひとコマ バージョン

## 県民の森名木紹介 vol.32 センダン

周りの木々の花時期がとっくに終わる6月上旬、中央記念館入口の北側に藤色の花を咲かせるのがセンダンです。資料によれば四国以南の暖地が自然分布…とあるように、この森の開設時に植えられたものですが、毎年旺盛に花をつけ、実を实らす樹勢は見応えがあります。

ネムノキと共にめっぽう遅い芽吹きからも暖地出身ということが伺えます。(工藤)



クマユリ(ユリ科)  
車百合

名前は葉が輪生し“車輪状”に見えることにより。亜高山の草原に多く、花弁は橙赤色で強く反り返ります。園内では数が少ないですが、ぽつぽつと咲いています。(駒野)



オトギリソウ(オトギリソウ科)  
弟切草

名前は鷹の傷を治す秘薬としていた鷹匠が、その秘密をもらした弟を斬殺し、飛び散った血が花や葉の黒点になったという伝説によるものです。止血、はれものなどに薬効があり、葉を揉んで出た汁を傷口に当てる民間療法は現在も行なわれているそうです。(駒野)



ウツボグサ(シソ科) 空穂草・  
靱草 別名夏枯草

名前は花後の枯れた花穂を、矢を入れる“空穂(うつぼ)”に見立てました。また花が枯れて黒っぽくなくても、そのまま立っているのが夏枯草とも言います。(駒野)



オオルリ(ヒタキ科)

ルリ色の美しい姿に加えてよい声で鳴くことから、コマドリ・ウグイスと合わせて日本の三鳴鳥と言われます。メスは茶色でキビタキのメスに似ていますが、一回り大きいです。(入岡)



ニホシトカゲ(トカゲ科)

幼体は背面や側面が黒く、5本の金色がかかった線とメタリックブルーの尾が特徴です。切り離すことができる尾を目立たせて、胴体を守る仕組みになっているようです。ちなみによくまちがわれるニホンカナヘビは、鱗に光沢がなく、体も細身です。(入岡)



ウシガエル(アカガエル科)

鳴き声が牛の声に似ているのでこの名前がつけました。食用として輸入・養殖されたものが野生化したもので、国内に住む最大のガエルです。目の後ろの丸い模様が特徴。逃げるときに「キャッ」と悲鳴(?)をあげるのは、ウシガエルの子ガエルのようです。(入岡)

イベントのスケジュールなどは裏面「7月・8月のイベント情報」をご覧ください